

法改正の対応

2015年4月に施行されたフロン排出抑制法に従い、社内の約1,500台のフロンガス使用設備に対し、点検等の対応を実施しています。

フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律 (略称 フロン排出抑制法)

保管事業所	登録台数
本社工場	340
細谷工場	210
篠原工場	250
幸海工場	80
九州工場	120

2015年4月の施行を受け、フロンガス使用設備の管理を開始しました。今後も維持管理を継続します。

環境法令の遵守状況

愛知県豊田市にある4工場並びに鹿児島県出水市にある1工場において、2015年度は環境関係の規制基準の超過はありませんでした。

ばいじん、NOx

対象事業所	ばいじん (規制値:0.2g/m ³ N)	NOx (規制値:70~200ppm)
本社工場	<0.0003~0.0011g/m ³ N	<1~44ppm
細谷工場	<0.0003~0.0040g/m ³ N	27~37ppm
幸海工場	<0.0003~0.0004g/m ³ N	<9~40ppm

各種装置ごとに測定した結果をまとめて表示しています
<は定量下限値未達を示しています

ダイオキシン類

対象事業所	対象設備	測定結果 (規制値:5ng-TEQ/m ³ N)
本社工場	アルミ集中溶解炉	0.00000039ng-TEQ/m ³ N

放流水質(有害物質項目)

対象事業所	項目	測定結果 (カッコ内は規制値)
本社工場	鉛およびその化合物	<0.02~0.03ppm (0.08)
	ホウ素およびその化合物	<0.05ppm (4)
	アンモニウム化合物、 硝酸・硝酸化合物	3.6~9.7ppm (30)
細谷工場	鉛およびその化合物	0.01~0.03ppm (0.08)
	ホウ素およびその化合物	<1.0~2.0ppm (4)
	フッ素およびその化合物	<0.1~4.0ppm (8)
	アンモニウム化合物、 硝酸・硝酸化合物	<0.1~4.0ppm (30)
幸海工場	フッ素およびその化合物	<0.1ppm (8)
	アンモニウム化合物、 硝酸・硝酸化合物	<0.1~12.0ppm (15)

トリクロロエチレン

対象事業所 ※1	地下水測定データ	回収量 ※2
本社工場	<0.000~1.68ppm	65.33kg
細谷工場	<0.000~0.200ppm	0.54kg

※1 上記以外の事業所では検出されていません
※2 回収量は官公庁へ届出している社内の算出値です

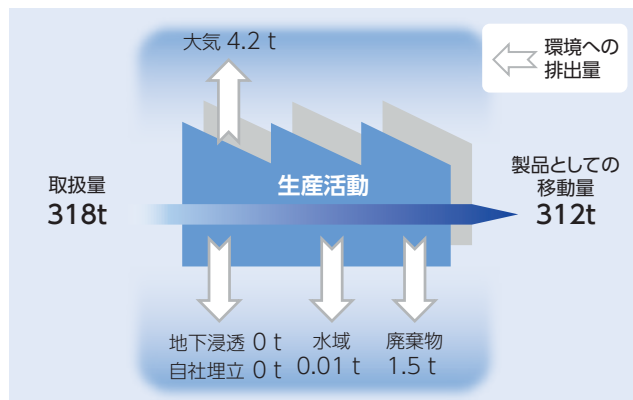
PCB含有機器 保管量

保管事業所	保管台数	処分台数
本社工場	0台 ※1	—
細谷工場	蛍光灯安定器等 150台	15台 ※2

PCB廃棄物処理基本計画の変更を受け、含有機器の再調査と処分を実施しました。

※1 全て細谷工場へ集約
※2 2016年4月に実施

PRTR法に基づく 排出・移動量

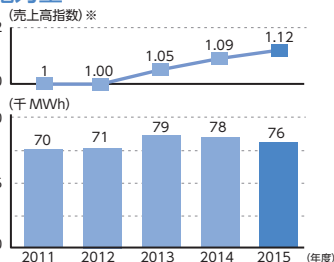




企業活動に伴うマテリアルフロー

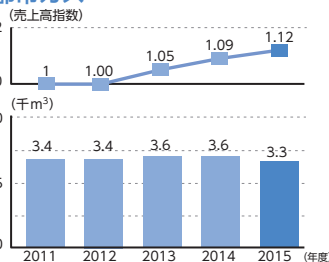
投入資源

●電力量



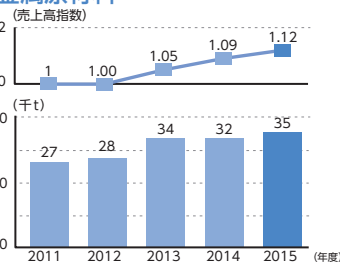
高効率機器の導入により電力量は減少しています。

●都市ガス



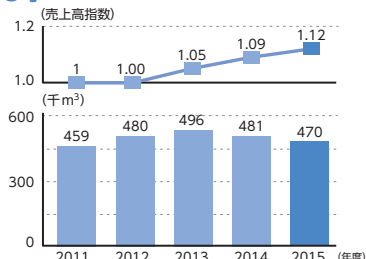
主に空調で使用しているため、一定の使用量となります。

●金属原材料



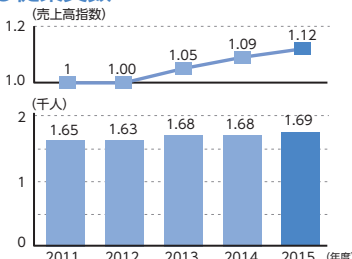
軸受製品の生産増に伴い、原材料購入量も増加しています。

●水



新めっきラインの設置が完了し、旧ラインの停止により減少しています。

●従業員数



計画的な雇用を維持しています。

※売上高指数
2011年の売上を1とした場合の、売上の伸び率

生産活動

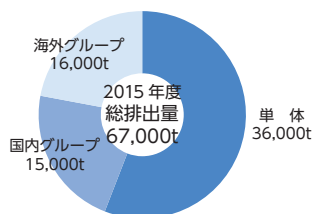


●社内循環資源量(ダイカスト製品)



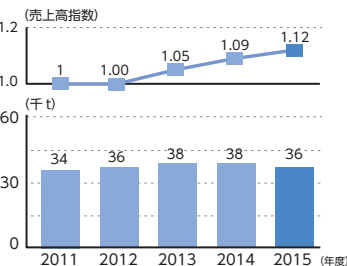
排出量

●大豊グループ全体の温室効果ガス(CO₂)総排出量内訳



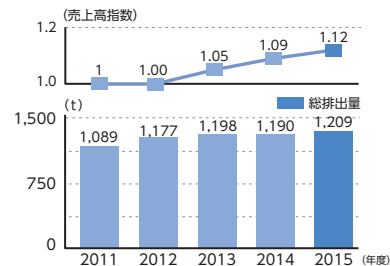
2013年度より、大豊グループ全体の温室効果ガス削減の目標を統一し、一体となって取り組んでいます。

●温室効果ガス(CO₂)総排出量



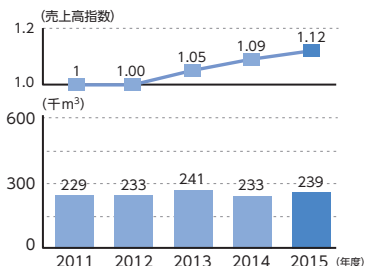
高効率機器の導入や省エネ活動に伴い、排出量が減少しています。

●廃棄物総排出量



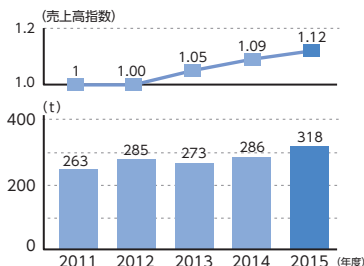
売上増加に伴い、排出物排出量は増加傾向にあります。

●放流水量



めっきラインの更新に伴い、放流水量が増加しています。

●PRTR法対象物質取扱量



製品の評価試験に使用するガンソリンが増えたため、増加しています。